

日吉盛幸編

万葉集歌句漢字総索引

附 字音索引

上 卷

部 首	[一] 部 ~ [无] 部
字 母	【一】 ~ 【既】
コード番号	0 0 0 1 ~ 0 7 3 3
ページ	1 ~ 1 2 0 2

桜楓社刊

日吉盛幸編

万葉集歌句漢字総索引

附 校異一覧
巻別字母集計表
部首索引
総画索引
字音索引

下 卷

部 首	〔日〕部	～	〔龜〕部
字 母	【日】	～	【龜】
コード番号	0 7 3 4	～	1 9 1 6
ページ	1 2 0 2	～	2 3 1 7
附 編【々】	2 3 1 8	～	2 3 2 7

桜 楓 社 刊

凡 例 (上巻)			
本 編 (上巻)	1	～	1 2 0 2 ページ
(下巻)	1 2 0 2	～	2 3 1 7 ページ
附 編 (下巻)	2 3 1 8	～	2 3 2 7 ページ
校異一覧 A・B (下巻)	2 3 2 8	～	2 3 5 2 ページ
後 記 (下巻)			7 2 ページ
巻別字母集計表並びに部首索引 (下巻末)	1 8	～	7 1 ページ
総 画 索 引 (下巻末)	1 2	～	1 7 ページ
字 音 索 引 (各巻末)	1	～	1 1 ページ

凡 例

- 一 本書は、西本願寺本萬葉集（複製本 主婦の友社1984年刊）を底本とし、原文を改訂したのちの、歌句を一単位とした漢字一字索引である。
 - 一 歌句は和歌中の各句の他、題詞・左注・脚注中であっても採用した。
 - 一 底本にある重点（おどり字々）は、同一または直前歌句文字列内の不定の一文字を示すため、すべて元字に置換し、元字字母で作成した。ただし、巻13-3272-20句目「行莫々」は一文字のおどり字に対し「行莫行莫」として処置した。なお、本編に続け、重点を一括して検出するための附編を作成した。
 - 一 漢字字母の配列順序は、J I S - C 6226 1983（『JIS ハンドブック情報処理』日本規格協会1984年刊）の部首番号に準拠した。部首を同じくするものは、総画数、字音の順とした。ただし、漢字「部」の省画字体である「へ」は「部」の直前に配置した。
 - 一 各部首内以下の本文の配列順序は『国歌大観』番号順とした。
 - 一 見出しの漢字【字】母は、初出時に字母「コード番号」〔部首〕部首の〔画〕数をも掲載し、同一の字母が次頁に及ぶ場合には、全頁にわたり頁の一行目左【 】内に示した。また歌句単位中での位置を「漢字原文」中に○（附編では㊦）印をもって示した。
 - 一 「コード番号」とは、前項の部首配列による順序で各字母に割り当てた通し番号であり、下巻末の「校異一覧 A」「巻別字母集計表並びに部首索引」の「コード」番号に一致する。
 - 一 本文の項目は、「漢字原文」「仮名訓読」「巻」「部」「旧番」「新番」「句番」「参考」の順とした。
 - 一 「漢字原文」とは、底本の漢字による本文を改訂したのちのものであり、〔 〕印で括ってある場合は、底本において割行であることを示す。
 - 一 「仮名訓読」とは、底本の片仮名による傍訓を平仮名によって整定したのちのものであり、?印を付した詞句は、定訓を得ないものであることを示す。また、各詞句を（ ）印で括った部分は、異伝句中に平仮名による訓読を補ったことを示す。
 - 一 「巻」とは巻数、「旧番」「新番」とは『新編国歌大観』（角川書店1984年刊）による新旧の番号であり、「部」とは各巻に施された大目の部立の略号を示す。ただし、部立のうち「遣」とは巻十五の遣新羅使人歌、「贈」とは巻十五の中臣宅守と茅上娘子との贈答歌、「防」とは防人歌であり、巻十七以降の巻末四巻は防人歌を除き空白とした。部立の略号は、以下の通りである。
- | | | | | |
|------|-------|---------|---------|---------|
| 雑＝雑歌 | 挽＝挽歌 | 問＝問答（歌） | 正＝正述心緒歌 | 旋＝旋頭歌 |
| 相＝相聞 | 譬＝譬喩歌 | 悲＝悲別（歌） | 寄＝寄物陳思歌 | 羈＝羈旅發思歌 |

- 一 歌句の一単位が、旧国歌大観番号下の第何句目にあたるかを「句番」の数字で示し、「或云」「一云」「或本云」などの異伝句については「句番」の四桁目の数値で示した。
- 一 「参考」項目は作者名を中心とし、「人麿哥集」「人麿謠集」「人麿歌集」は、それぞれいわゆる略体、非略体、その他であることを、「作者未詳」は左注等に明記している作者未詳・作者未審で、空白及び()のみは、不明記の作者未詳であることを示す。また、作者名に？印を施したものは、推定の作者であることを示す。
- 一 本索引に採用した漢字の字母に関しては、下記の要領に従った。
 - 1) 底本の字体をできるだけ尊重して、これを字母とした。
例．余・競・致・曳・杼・櫛・淩・糞・熒・猷・獺・良・逕・鴈・鳩・釵
 - 2) 底本の異体字・省画字で、いわゆる新字体に一致するものは、これを字母とした。
例．乗・乱・乳・舎・伴・具・内・冬・次・塩・庭・従・得・戸・朝・騰・来・為・望・益・礼・緑・美・羽・蔵・調・遅・道・随・青・須・飯・黒・燕
 - 3) 底本に旧字体で書かれてあるものは、これを字母とした。
例．會・傳・勞・豫・國・圓・實・對・帶・廣・應・戀・挾・變・樂・歡・歸・氣・澤・濕・濱・瀧・獨・晝・當・盡・聲・舊・藝・處・賣・邊・驛・龜
 - 4) 2)と3)の場合であっても、底本等に二通り以上の相異なる使用字体があつて、それぞれを使用するものは、これらを字母とした。
例．低－侶・辨－弁・尅－剋・崗－岡・氏－弓・歎－嘆・礪－礪・胸－胷・與－与・萬－万・部－へ・餘－余・礼－禮・祈－禱・縵－縵・鴛－鴦・知－智・兔－菟・付－附・陰－蔭・鳩－雉・鵜－鷗・醉－醉・筏－筏・釵－釵・釵－釵・調－哥・歌・舟－船・舳－舶
- 一 底本の改訂ことに片仮名による原文を基にした訓読は、鶴久・森山隆『萬葉集』、澤瀉久孝・佐伯梅友『新校萬葉集』、佐竹昭広・木下正俊・小島憲之『萬葉集本文篇』中西進『万葉集全訳注原文付』など先学の諸訓を勘案し、私見をもって統一した。
- 一 本書の下巻末に底本を改めた際の「校異一覧」A・Bを付した。
- 一 本書の下巻末に「巻別字母集計表」と部首による検索のための索引を付した。
- 一 本書の下巻末に総画数による検索のための索引を付した。
- 一 本書の各巻末に字音による検索のための索引を付した。

＊ ＊ 見出し項目例 上巻 753～759 ページ ＊ ＊

【字】コード番号〔部首〕－〔画〕						
【妹】 0 3 9 1 〔女 〕－〔 3 〕						
漢字原文	仮名訓読	巻部	旧番	新番	句番	参 考
P. 753 家在○乎	いへなるいもを	6雑	6	6	4	軍王 類聚歌林
P. 759 ○之容儀乎	いもがすがたを	11正	2614	2621	2004	一書歌曰
↓	旧番2614の第4句目に相当する2つ目の異伝句					
「妹」句中の位置						